寝屋川市水辺整備基本構想

（改定版）

寝屋川再生ワークショップ

寝屋川市

平成 31（2019）年３月

目　次

第 1 章　水辺整備の背景

1．水辺整備基本構想の改定について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

2．水辺整備基本構想の位置付け ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

3．寝屋川再生ワークショップのこれまでの取組 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

⑴　ワークショップの主な経緯

⑵　川をまちづくりに活かす活動

4．寝屋川市内における水辺の特徴 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

⑴　淀川とともに歩んだ寝屋川、近畿を代表する大河川「淀川」

⑵　様々な水を集める寝屋川

⑶　市域西部の水は淀川から、市域東部の水は北生駒［交野・四條畷］から

第 2 章　「寝屋川再生ワークショップからの提案」と「基本理念」

1．水辺整備にあたっての「寝屋川再生ワークショップからの提案と目標」 ・・ 8

⑴　市内全域に潤いのある水辺を広げる

⑵　市民のソフト活動を重視する

⑶　日常生活に活かす水辺づくりをおこなう

⑷　水辺の情報発信をおこなう

2．水辺整備の基本理念 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

第 3 章　水辺整備の基本方針

1．基本方針 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

⑴　水辺のネットワークとため池の保全

⑵　適切な水量確保と水辺の拡大

⑶　ビオトープネットワークの構築

⑷　市民のソフト活動と連動した重点整備

⑸　安全で安心して利用できる水辺整備

⑹　都市整備に際しての効果的な水辺整備

2．基本方針フロー ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

第 4 章　重点整備箇所の抽出

１．重点整備候補地の抽出指標 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
⑴　水辺整備候補地の評価項目
⑵　水辺整備候補地の抽出に係るキーワード
２．重点整備候補地と評価結果 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
表：重点整備箇所一覧
３．寝屋川再生ワークショップによる
市民提案！！「 優先的に整備を進めてほしい箇所 」 ・・・・・・・・・・ 26

第 5 章　参考資料

１．重点整備候補地別の評価概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28
２．寝屋川市内水路等・整備候補地抽出マップ ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31
３．寝屋川再生ワークショップが関わった主な水辺整備 ・・・・・・・・・・・・ 32
４．寝屋川再生ワークショップのこれまで ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34
５．淀川河川公園基本計画などの概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36
６．寝屋川流域水循環系再生構想の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 37
７．寝屋川流域水環境改善計画の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 38
８．淀川水系寝屋川ブロック河川整備計画の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 39
９．寝屋川市環境基本計画（改定版）の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40
10．寝屋川市みどりの基本計画改定版の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41

第 1 章　水辺整備の背景

1. 水辺整備基本構想の改定について

本市は、大阪府の東北部の淀川左岸に位置し、大阪市域の中心部から約 15km、京都市域の中心部から約 35km の距離にあり、主に西部の平坦地帯と生駒山系の一部である東部丘陵地帯からなる地勢に分かれ、淀川と市の中心部を流れる寝屋川をはじめ、市域西部の水路網や東部に点在するため池など、市民の身近な場所に多様な水辺環境を有しています。

このような水辺に関する特性を活かしたまちづくりを進めるため、市制 50 周年を契機として平成 13（2001）年度から寝屋川再生ワークショップによる取組を継続的に実施し、寝屋川せせらぎ公園の整備（平成 17（2005）年４月完成）など、市と市民等との協働により水辺環境の整備と保全を進めてきました。

また、寝屋川再生ワークショップでは、学校法人常翔学園　摂南大学（以下、「摂南大学」という。）と連携を図り、平成 22（2010）年３月には「寝屋川市水辺整備基本構想」（以下、「基本構想」という。）を策定し、市民提案に基づく水辺整備の基本理念・基本方針・重点整備箇所等を踏まえて、市民活動を主体とした水辺づくりを推進しています。

その後、寝屋川再生ワークショップによる“川をまちづくりに活かす活動”が一定の成果を上げてきましたが、基本構想の策定から概ね 10 年が経過し、香里園地域への環境用水確保などの新たな課題や、淀川河川公園点野野草地区における水辺環境再生の機運の高まりなどを反映した国・大阪府の動向、社会情勢の変化等に対応した関連計画の改定などを踏まえ、以下の目的により基本構想の改定を行うものです。

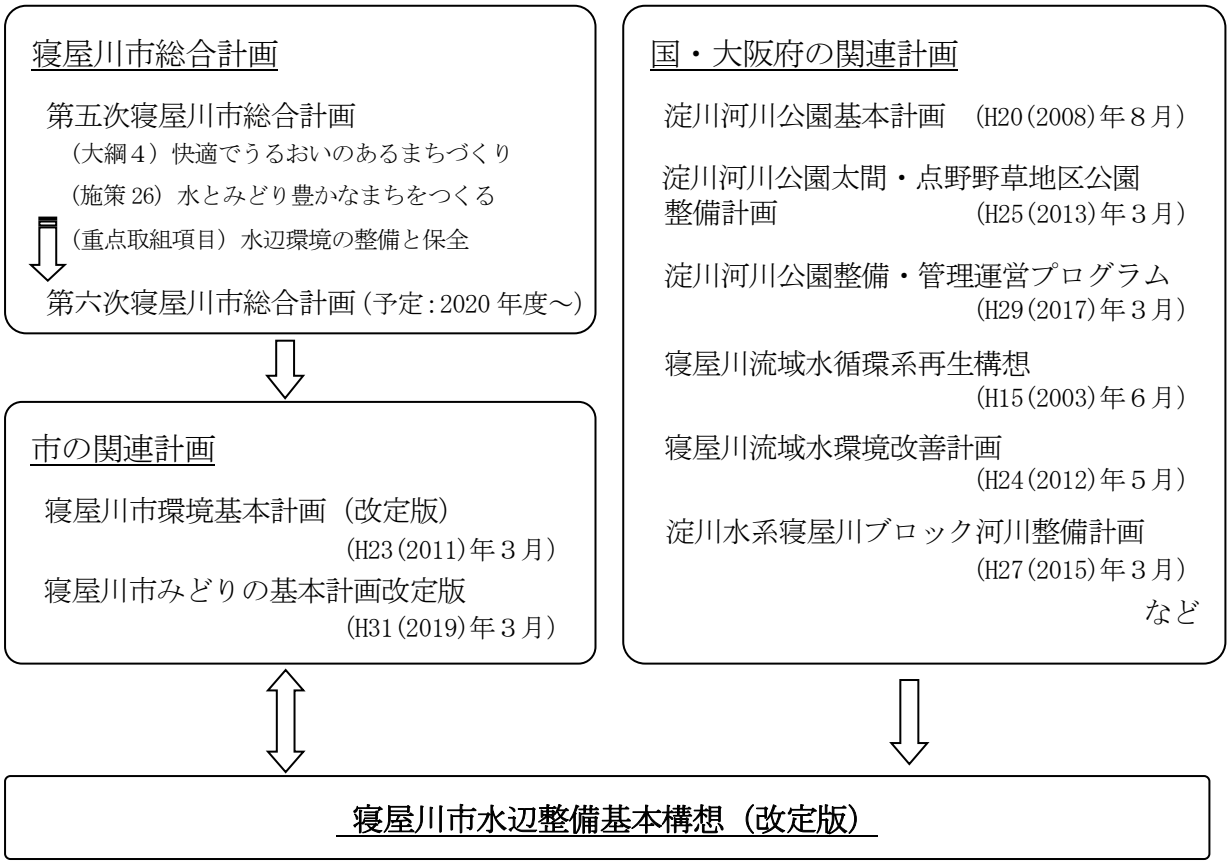
⑴　これまでの寝屋川再生の歩みと今後の展望を見据えた、持続可能な市民参画・協働の水辺づくりにより、更なる「水とみどり豊かなまちづくり」を推進

⑵　社会情勢の変化などを踏まえた関連計画（寝屋川流域水環境改善計画・寝屋川市環境基本計画・寝屋川市みどりの基本計画等）との連携促進及び諸課題への対応

⑶　平成 31（2019）年４月からの中核市移行を契機とした、都市格の向上に資するシティプロモーションの取組の充実

2. 水辺整備基本構想の位置付け

本基本構想は、市と摂南大学との連携による「寝屋川再生ワークショップに係る調査研究」の成果として、公募市民の意見を踏まえた水辺整備に関する基本的な構想であり、市の最上位計画である「寝屋川市総合計画」をはじめ、国や大阪府、市の関連計画などとも整合した内容としています。



なお、水辺整備の施策の推進にあたっては、上記の関連計画との整合を図りながら、実現性などを踏まえ検討することとします。

また、本基本構想の対象期間は平成 31（2019）年度から概ね 10 年間とし、寝屋川再生ワークショップでの議論等を通じて、内容の改善や見直しなどを検討していくこととします。

3. 寝屋川再生ワークショップのこれまでの取組

⑴ ワークショップの主な経緯

本市では、市制 50 周年を契機として、市民協働によるまちづくりを推進すべく、平成 13（2001）年度から寝屋川再生ワークショップにより、川をまちづくりに活かす活動を行ってきました。寝屋川再生ワークショップでは、一級河川寝屋川の再生プランを提案するとともに、さらにワークショップに参加している市民等が中心となった自主組織「ねや川水辺クラブ」が結成され、寝屋川再生ワークショップ、ねや川水辺クラブ、寝屋川市が共に市内の大学等とも連携して様々な取組を市民活動として行っています。

このように実践してきた市域における様々な水辺活動は、全国でも先進的な取組として高い評価を受けており、平成 14（2002）年「川の日ワークショップ」のグランプリをはじめとして、平成 20（2008）年「第 10 回日本水大賞　国土交通大臣賞」受賞、平成 30（2018）年 環境大臣表彰（地域環境美化功績者表彰）ほか、数々の賞を受賞するなど、市民協働の取組がまちづくりを大きく牽引してきました。

⑵ 川をまちづくりに活かす活動

寝屋川再生ワークショップが関わった主な水辺整備を紹介します。

寝屋川せせらぎ公園	【平成 17（2005）年４月供用開始】
茨田樋遺跡水辺公園	【平成 19（2007）年４月供用開始】
幸町公園	【平成 21（2009）年４月供用開始】
川勝水辺ひろば	【平成 25（2013）年６月供用開始】
友呂岐・二十箇水辺ひろば	【平成 27（2015）年３月供用開始】
山新池（太秦２号公園）	【平成 29（2017）年４月、平成 30（2018）年４月供用開始】

※　次ページ【実現した親水空間】写真参照

また、寝屋川再生ワークショップに参加している市民等の活動は、水辺に関する計画づくりのほか、クリーンリバー寝屋川作戦をはじめとする清掃活動、寝屋川源流探索と源流の間伐作業、一級河川寝屋川や友呂岐水路、幹線水路等でのＥボートによる舟下り、生き物調査、モニタリング活動、さらには水辺づくりの実作業等多方面にわたり継続的に実施しています。

そのほか、広域的な活動として淀川河川公園点野野草地区におけるワンド再生などの取組にも積極的に参画しています。

寝屋川再生ワークショップでは

市民やＮＰＯ、教育関係、行政などの協働により

“ 川をまちづくりに活かす ”

そんな活動を継続して実施しています。

【実現した親水空間】

寝屋川せせらぎ公園

茨田樋遺跡水辺公園

幸町公園

川勝水辺ひろば

友呂岐・二十箇水辺ひろば

山新池（太秦２号公園）

4.　寝屋川市内における水辺の特徴

⑴　淀川とともに歩んだ寝屋川、近畿を代表する大河川「淀川」

淀川は古くから近畿地方の社会、経済、文化の基盤を支えてきた河川です。奈良時代には瀬戸内海から木材を平城京まで運ぶ水の道となり、江戸時代には大阪と京都を結ぶ三十石舟が行き来していました。そして明治時代に鉄道が開通するまでは淀川舟運により京の農産品が大阪難波に運ばれていました。

淀川点野ワンド

寝屋川市域の川は、木屋、太間、点野、仁和寺などの地域を流れています。点野には、阪神淡路大震災以降、緊急時のための船着場が整備されました。その下流には明治時代の淀川改修の名残りである点野ワンドが残っています。淀川は、私たち寝屋川市民の暮らしにも深く関わり貴重な恵みと自然環境を提供してくれる近畿の一大河川です。

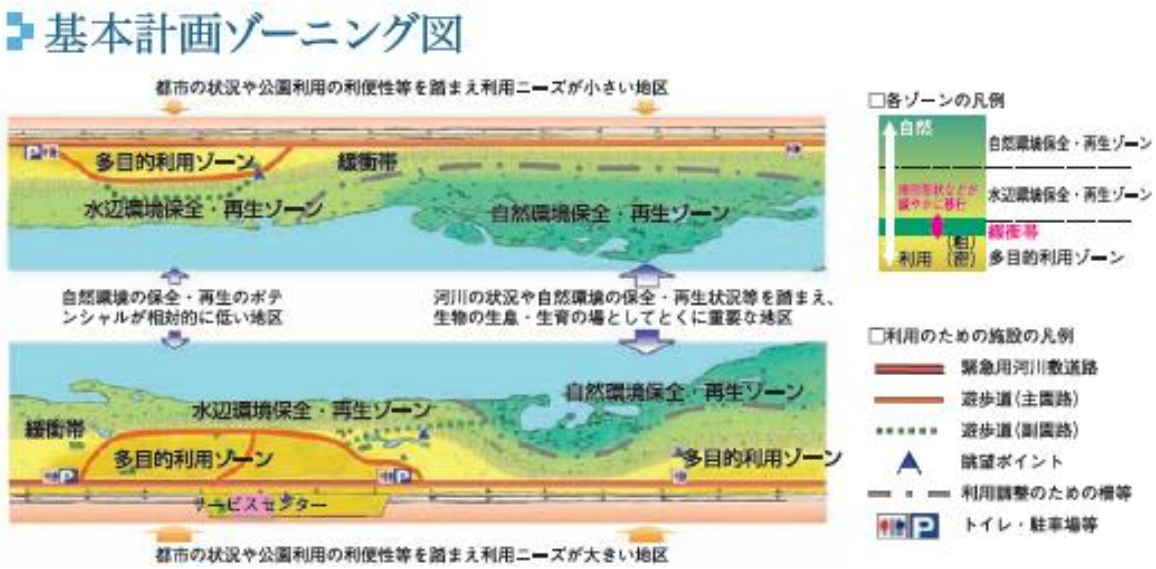
点野ワンドでは、下流側の一部が平成 30（2018）年６月に国の工事によって完成しました。

完成した淀川点野ワンドの一部

現在、 点野野草地区において国が定める「 淀川河川公園整備･管理運営プログラム 」に基づき、水辺環境の再生・ワンドの環境改善を図るための構想の実現に向け「点野水辺づくりワークショップ」が進められています。

点野野草地区整備イメージ

淀川河川公園整備・管理運営プログラムより



淀川河川公園整備・管理運営プログラムより

⑵　様々な水を集める寝屋川

寝屋川の起点

一級河川寝屋川の上流をたどると、交野市域の「傍示川（ほうじがわ）」を経て、寝屋川市域では「たち川」となり、寝屋川市寝屋付近で「寝屋川」となります。

この寝屋川は、北生駒山系から流れる自然水が本流ですが、京阪寝屋川市駅の北、桜木町付近において淀川からの浄化用水を加え、さらには「渚水みらいセンター」（大阪府の下水処理場［枚方市］）からの高度処理水を流入させるなど様々な水を集めています。

⑶　市域西部の水は淀川から、市域東部の水は北生駒［交野・四條畷］から

木屋揚水機場

市域西部の水路の水は、そのほとんどが淀川から取水されたもので、木屋揚水機場から淀川沿いを大阪市まで流れる幹線（かんせん）水路や二十箇（にじゅっか）水路を経て、市内の各用排水路へつながっていきます。

幹線水路から各用排水路へ流れこんだ水は農業用水などに利用され、古川に排水された

のち、古川は門真市を経て鶴見区で寝屋川に注いでいます。また古川へは、寝屋川の水が古川浄化導水路により浄化用水として、清水町の「友呂岐緑地（通称：たこ公園）」付近から引き込まれています。一方の二十箇水路は、市内を南北に縦断する友呂岐水路につながっています。

友呂岐水路は、かつては生活に利用されていた「二十箇用水路」と、排水のための「友呂岐悪水路」とが並行して流れていました。今ではこれらが集約され「友呂岐水路」となり、友呂岐水路沿いには京阪沿線でもほかに類を見ない約 3.5 km にも及ぶ「友呂岐緑地」が整備され、桜の名所として市民に親しまれています。

友呂岐水路と友呂岐緑地

次に、市域東部の水は主に北生駒山系、交野市・四條畷市域からの自然水が流れています。標高差もあり、降った雨は一気に流れ出し、普段は水量が少ないといった状況ですが、ため池が多く点在しており、現在、市所有・財産区所有もあわせて 20 箇所あります。

この地域では、第二京阪道路の開通（平成 22（2010）年 3 月）以降、寝屋南土地区画整理事業や寝屋川市東部地区都市再生整備計画事業が完成し、さらには寝屋川公園駅周辺のまちづくりが進められていますが、今後とも、貴重な自然環境や水循環の役割をしっかりと保全してしいくことが大切です。

蔵王池（小路明和公園）

下水道施設においては、「なわて水みらいセンター」（大阪府の下水処理場［四條畷市］）の高度処理水は、岡部川や寝屋川第十二水路への浄化用水をはじめ、四條畷市域への農業用水として有効活用されています。

第 2 章　「寝屋川再生ワークショップからの提案」と「基本理念」

1.　水辺整備にあたっての「寝屋川再生ワークショップからの提案と目標」

⑴　市内全域に潤いのある水辺を広げる

私たちのまち「寝屋川市」は、川の名称が市の名称になっています。市のシンボルともいえる一級河川寝屋川は、かつて汚い川の代名詞にもなっていました。

旧　寝屋川市駅前

昭和 47（1972）年 7 月の大東水害もあり、堤防強化が図られるなどの水害対策が進みましたが、川自体はマイナスのイメージが定着して日常目に触れることも少なくなり、いつしか市民に忘れ去られた存在になっていました。そして、かつて市内各地でみられたメダカやホタルもみられなくなりました。寝屋川は近いけれども遠い川になっていたのです。一級河川寝屋川以外にも、市内の川や水路はフェンスで仕切られ、コンクリートで覆われた部分も多く、水辺とふれあう場所が減少しています。

しかし、公共下水道の普及やクリーンリバー寝屋川作戦の継続など、昔の姿を取り戻したいという多くの人々の活動が実を結び、川もきれいになってきました。

寝屋川せせらぎ公園の夜景

水の流れはつながっています。山から海へ至る水のつながりを意識し、こどもから大人に至る人の世代を超えたつながりも意識し、水辺や緑を通じた生き物のつながりを意識できるような水辺づくり、川づくりをみんなで進め、次の時代に自信をもって引継ぐことのできる財産として再生していくことが大切です。

⑵　市民のソフト活動を重視する

水辺はあるときには危険な場所にもなります。日常的に水辺に親しむことで、水辺の危険性も体感し危険に備えることも大切です。私たち自身がお互いに見守りあいながら、安全な水辺づくりと災害時の被害が最小限になるよう努めていかなけれ

ばなりません。

クリーンリバー寝屋川作戦

寝屋川せせらぎ公園生き物調査

寝屋川市民の活動は、ソフトの活動が大きな特徴です。クリーンリバー寝屋川作戦、Ｅボートなどによる川に親しむ活動、源流探索など歴史等を学ぶ活動、魚の生息状況や植生など環境を調べる活動、水辺づくりの実作業などの活動を積み重ねることで、効果的なハード整備につなげてきました。

源流探索

源流間伐

今後とも、 水辺整備にあたっては、地域における市民の活動が行われていたり、市民の活動が期待できる状況にあることが重要です。市民がまちづくりの主役であることを自覚するとともに、行政、企業、市民団体などが信頼関係をより深め連携していくことで、市民参画・協働によるまちづくりを推進していきます。

⑶　日常生活に活かす水辺づくりをおこなう

かつて市内の水路では、淀川から引き込んだ用水を活かして農業に利用するだけでなく、炊事や洗濯、風呂にも川の水が使われていたり、川魚などは季節ごとに雑魚豆や昆布巻きなど料理にも利用されていました。また、こどもが川で遊ぶ姿が市内のあちこちで普通に見られ、遊び場として貴重な位置を占めていました。水辺を生活や遊びに活かした地域のコミュニティがあったのです。もちろん、上流の人は

下流にゴミを流さないように気をつける生活習慣も定着していました。

市街地として土地利用がなされている中にあって、かつてのような利用はできないにせよ、時代に見合う形で水辺が人々の憩いの場や、生き物とふれあえる場として川づくり・水辺づくりを進めていくことで、地域コミュニティの活性化や再生につなげたいものです。

地域と共に進める水辺のハード整備やそれを活かしたソフトの文化が生まれ、定着していけば、“ 命と笑顔が輝くまち　寝屋川 ”の実現へとつながっていきます。

⑷ 水辺の情報発信をおこなう

市内の水辺に関わる活動は、寝屋川再生ワークショップによる取組だけではなく、地域や学校園、ボランティア団体などで様々な機会を通じて実施されています。しかしながら、市内の水辺は広範囲に網の目状にあることから、市民が日常的に関わり活動相互のつながりを強めていくことが重要です。

水辺に係わる様々な活動があることを、多くの手段を使って情報発信していくことが望まれ、実践を通じた交流活動も大切なことです。

2. 水辺整備の基本理念

「 ひとをつないで 水辺をつなげる
水辺をつないで まちをつなげる 」

メダカが泳ぎ、ホタルが飛び交っていたかつての水に親しむ暮らしを思い起こし、水辺との関わりを大切にして、市内に水辺の潤いをひろげ、市民・行政の協働により、市民の日常生活にとけこんだ水辺づくりを進めていきます。

水辺の積極的な市民活動により人々の輪が広がれば、そこから新たな人のつながりが生まれ、更なる水辺の活動の機運向上へとつながります。

人のつながりが水辺をつなげ、水辺のつながりがまちづくりにつながるように、市民と行政が力を合わせて水辺環境の創造と保全に努めます。

第 3 章　水辺整備の基本方針

1. 基本方針

⑴ 水辺のネットワークとため池の保全

水辺のネットワーク形成、周辺資源とのネットワーク形成、市街地内に自然を取り戻すことなどに配慮しつつ、まちづくりの拠点や骨格となるような水辺づくりを進めます。

まちづくりの骨格となる河川・水路

寝屋川、古川、友呂岐水路、幹線水路、二十箇水路、打上川、たち川、讃良川

南前川、岡部川、北谷川、楠根川等水路網の中心となる河川水路

広域的な自然を有するフィールド

淀川（淀川河川公園を含む）

保全すべきため池等

山新池（太秦２号公園）、こも池（国松公園）、三ツ池（成田公園）等の自然環境豊かなため池等

① まちづくりの骨格を形成する重要な河川水路の保全・整備を進め、潤いのある水辺をまち全体にひろげます。

② 大阪と京都を結ぶ広域的なフィールドを有する淀川（淀川河川公園を含む）において、水辺環境の保全・再生の取組を国と連携しながら促進します。

③ 市域西部地域においては、骨格を形成する河川・水路の水量確保に努め、潤いのあるまちづくりを進めます。

寝屋川せせらぎ公園カルガモ

④ 市域東部地域においては、自然が減少しないよう保全することを基本として防災対策との整合を図り、人々が安心して利用できる水辺整備に努めます。

また、点在するため池については、渡り鳥や昆虫など、多様な生き物の生息の場となる貴重な水辺空間として、水辺のネットワーク形成に位置付けるとともに防災の観点からもその保全に努めます。農地ため池や公園の修景池等について施設管理者等とも連携し、水抜きによる水質浄化等に努めます。

⑤　歴史的資源、学校園、公共施設などを活用し、水辺のネットワークの形成に努めます。

⑥　一定区間で整備可能な箇所を抽出し、遊歩道やポケットパークなどの周辺整備と併せて水辺空間の創造を図ります。

⑦　花木や植物、生物を愛でながら、行ってみたくなるような水辺のデザインと連続性を確保します。

⑵　適切な水量確保と水辺の拡大

①　市内水路の水量確保に努めます。都市化の進展等で水量が確保できなくなった香里園地域などの水路へ環境用水を確保することや、必要に応じて災害時等の利用の可能性について検討していきます。

※ワークショップでは、淀川の水を流すことに加え、厳しい水源確保の状況を背景として、さく井施設の設置等について意見がありました。

②　木屋揚水機場からの用水（幹線水路）、寝屋川浄化用水機場からの浄化用水（寝屋川）、古川浄化導水路からの浄化用水（古川）、渚水みらいセンターの高度処理水（寝屋川、二十箇水路、友呂岐水路）、なわて水みらいセンターの高度処理水（岡部川、寝屋川第十二水路）を河川や市内水路に適切に配分することで、まち全体に潤いのある水辺を広げていくようにします。

③　寝屋川せせらぎ公園については、人々の利用と下流域の水質保全に配慮して、総流量の確保を行う中で、寝屋川流域水環境改善計画に基づく目標値（水量・水質）が確保されるよう、関係機関と連携を図ります。

④　幸町公園付近をはじめとした寝屋川上流域の水量確保についても調査・研究に努めます。

※現在、市民団体が市等と協働で市民に呼びかけ、寝屋川源流域の間伐作業を行うことで、適切な水量確保と水質の向上に努めていますが、ワークショップでは、大阪市豊野浄水場への水道管より取水し、打上川、たち川に流してはどうかとの意見もありました。

⑶　ビオトープネットワークの構築

①　生き物の生息環境を連続させるよう、水辺の自然の連続性を確保し、土や植栽

などをつなげ、生物多様性の保全を図ります。

② 魚や水生生物などが水辺を円滑に移動できるよう、魚道を確保するなど可能な限り落差工等の改善に努めます。

点野小学校ビオトープ

③ 水路等の整備では、可能な限り水陸移行帯（エコトーン）の形成や淵と瀬が自然な形でできるように配慮します。また、護岸についても空石（からいし）積みにするなど、生き物の生息環境に配慮します。

エコトーン

垂直護岸ではない植物や土が連続する緩傾斜の水辺

水位の上下につれて水中になったり水から離れたりする場所

⑷ 市民のソフト活動と連動した重点整備

① こどもたちが体験し、関わる水辺づくり

成美小学校総合学習（清水町付近古川）

こどもたちが、自主的に清掃活動に参加したり、生き物とふれあえるよう、学校、地域、関係機関と連携し、総合学習や地域活動の場としての水辺の活用をこれからも進めていきます。

学校などでは、周辺の水路と隣接する箇所などで、ビオトープの取組が行われており、学習の場としての水辺づくりを支援します。

② 市民参加型ハード整備の組織づくり

水辺を育む意識を醸成し、自主的な組織づくりを進めます。茨田樋遺跡水辺公園や友呂岐・二十箇水辺ひろばの「市民土木工事」のように、自治会住民をはじめ関心のある市民等の参加を促進します。

中央小学校総合学習（幸町公園一級河川寝屋川）

③ 市民活動の活性化と情報発信

水辺の活動や研究など、水辺を活用した様々な取組で寝屋川源流域や下流域を

含めたネットワークづくりを進めます。

また、様々な活動の情報を組み合わせて情報発信することで、水辺を大切にする意識をさらに育み、水辺を活かしたまちづくりを進めます。

④　市民と行政の協働による川育ての活動

寝屋川せせらぎ公園で実施されている川のモニタリング及び生き物調査、清掃などによる川を育む維持管理を今後も進めます。

⑸　安全で安心して利用できる水辺整備

①　雨水排水路としての水路

寝屋川市内の水路等の水辺は、一方で、雨水排水路としての重要な役割を担っています。河川水路の多くが流量調節を行っており、親水施設等の整備については、これらに十分配慮するとともに、維持管理をはじめ水路の機能に支障とならないよう細心の注意を払い、安全で安心して利用できる水辺整備を行います。

②　非常時に役立つ市内水路

災害を軽減するためには、「自助、共助、公助」が重要です。大地震などの大きな災害時には、水路の水は防火用水や水洗用水など、生活用水として自助・共助に大いに役立つことが考えられます。網の目にはりめぐらされた市内水路は、非常時の重要な水資源として、その活用についての啓発も大切なことです。

⑹　都市整備に際しての効果的な水辺整備

公共事業等のまちづくりにおいては、都市格の向上を図るべく、寝屋川市総合計画及び市の関連計画（環境基本計画、みどりの基本計画など）をはじめ、国・大阪府の関連計画との整合性や事業間の相乗効果、費用対効果などを十分に踏まえて、水辺のハード・ソフト整備を行っていきます。河川、下水道関係機関のほか、道路、公園、都市開発、環境、農業政策、地域振興等、市と国・大阪府の関係機関が一層連携を図り、市の地域特性である水辺を活かしたまちづくりを推進します。

2. 基本方針フロー

第 1 章 水辺整備の背景
1. 水辺整備基本構想の改定について
2. 水辺整備基本構想の位置付け
3. 寝屋川再生ワークショップのこれまでの取組
⑴ ワークショップの主な経過
⑵ 川をまちづくりに活かす活動
4. 寝屋川市内における水辺の特徴
⑴ 淀川とともに歩んだ寝屋川、近畿を代表する大河川「淀川」
⑵ 様々な水を集める寝屋川
⑶ 市域西部の水は淀川から、市域東部の水は北生駒[交野・四条畷]から

寝屋川再生ワークショップが関わった主な水辺整備
- 平成 17 (2005)年 4 月供用開始:寝屋川せせらぎ公園完成。 人にも生き物にもやさしい公園として整備
- 平成 19 (2007) 年 4 月供用開始:茨田樋遺跡水辺公園完成。市民工事による整備
- 平成 21 (2009) 年 4 月供用開始:幸町公園完成。大阪府警察寝屋川待機宿舎建替整備等事業と連携した、都市公園と河川の一体的な整備
- 平成 25 (2013)年 6 月供用開始:川勝水辺ひろば完成。広い川幅の河川敷を生かした整備
- 平成 27 (2015)年 4 月供用開始:友呂岐・二十箇水辺ひろば完成。市民工事による整備
- 平成 29 (2017)年 4 月供用開始:山新池(太秦2号公園)野鳥観察デッキを整備
  平成 30 (2018)年 4 月供用開始:山新池(太秦2号公園)山新池の北側に散策路を整備

第 2 章 「寝屋川再生ワークショップからの提案」と「基本理念」
1. 水辺整備にあたっての「寝屋川再生ワークショップからの提案と目標」
⑴ 市内全域に潤いのある水辺を広げる
⑵ 市民のソフト活動を重視する
⑶ 日常生活に活かす水辺づくりをおこなう
⑷ 水辺の情報発信をおこなう
2. 水辺整備の基本理念
「ひとをつないで 水辺をつなげる
水辺をつないで まちをつなげる」

第 3 章 水辺整備の基本方針
1. 基本方針
⑴ 水辺のネットワークとため池の保全
⑵ 適切な水量確保と水辺の拡大
⑶ ビオトープネットワークの構築
⑷ 市民のソフト活動と連動した重点整備
⑸ 安全で安心して利用できる水辺整備
⑹ 都市整備に際しての効果的な水辺整備

第 4 章 重点整備箇所の抽出
1. 重点整備候補地の抽出指標
⑴ 水辺整備候補地の評価項目
⑵ 水辺整備候補地の抽出に係るキーワード
2. 重点整備候補地と評価結果
3. 寝屋川再生ワークショップによる市民提案!!
「優先的に整備を進めてほしい箇所」

第 4 章　重点整備箇所の抽出

1. 重点整備候補地の抽出指標

整備箇所を抽出するための「水辺整備候補地の評価項目」と、さらに効果的に候補地を抽出するために必要な情報となる「水辺整備候補地の抽出に係るキーワード」を示します。

⑴ 水辺整備候補地の評価項目

① 市内水路ネットワーク形成上の効果

市内の水辺は連続性を確保することが重要と考えられ、水路のネットワークが効果的に形成される可能性のある箇所。

② 周辺資源とのネットワーク

周辺に小学校、中学校、幼稚園、保育所、公園、寺社などが立地している若しくは、周辺に貴重な自然が残るなどの箇所。

③ 住民参加の可能性

今後、水辺を維持管理することが地元に求められており、すでに住民が清掃活動など、積極的に関わっていたり、今後、関わる可能性が高い箇所。

④ 整備の容易性（熟度）

水辺整備と関連付けられるまちづくり計画や水路改修が進行中であるなど、整備の実現性が見込まれ、効果的な整備が期待できる箇所。

⑵ 水辺整備候補地の抽出に係るキーワード

活用のキーワード	・ 学校（幼稚園・保育所を含む）に近い ・ 歴史を思いおこす箇所（二十箇用水、友呂岐緑地） ・ 公園、人の寄る場所 ・ 自然が豊か（打上川） ・ 景観が良い（幹線水路、友呂岐水路） ・ レクリエーションに活用できる　など
それ以外のキーワード	・ 環境用水の確保、導入（共通認識として） ・ 防災での活用（近年頻発する大地震など自然災害への教訓） ・ ヒートアイランドの緩和(オープンの水路) ・ 遊水池、調整池としての役目 ・ 農産物の保護 ・ 犯罪防止（子どもの情操教育に役立つ） ・ 緑化機能（森を守る） ・ 小さな水路も大切（延焼を防ぐ、生活用水としての活用など）

2. 重点整備候補地と評価結果

寝屋川再生ワークショップによる整備箇所の提案では、評価・抽出した「重点整備候補地」の中から、重点的に整備が考えられるとして「重点整備箇所」を抽出します。さらに「重点整備箇所」の中から評価が高い候補地を、“寝屋川再生ワークショップによる市民提案！！「優先的に整備を進めて欲しい箇所」”とし、整備の熟度にあわせて市民協働による水辺づくりを進めることを目指します。

重点整備候補地 （34 箇所＋その他） 内訳 ： No1～30＋No101, 102, 103, 201＋その他

8. 寝屋川第十二水路
9. 寝屋川第十一水路・上流水路
10. 友呂岐・二十箇水辺ひろば
11. 茨田樋遺跡水辺公園
12. 葛原地内水路
13. 桜小学校横水路
14. からくる親水公園
15. 打上川
16. 池田第一水路・上流水路
17. 木屋神社前の水路
18. 高宮栄町地内水路周辺
19. 香里園駅西側
20. 山新池（太秦2号公園）
21. 三井団地調整池
22. たち川周辺
23. 田井小学校付近
24. 池田1号公園付近
25. 寝屋川第五水路
26. 五藤池
27. 三ツ池（成田公園）
28. 河北第二水路及び門真第六水路

重点整備箇所 （13 箇所）

1. 神田地内水路
2. 仁和寺第一水路
4. 古川（水路）
6. 幹線水路
7. 寝屋川第四水路
101. 川勝水辺ひろば

寝屋川再生ワークショップによる市民提案！！「優先的に整備を進めてほしい箇所」（7箇所）

5. 友呂岐水路
29. 香里浄水場周辺水路
30. こも池（国松公園）
3. 木田地内水路
102. 寝屋川の起点
103. 寝屋川本川とたち川の落差工
201. 淀川河川公園点野野草地区

その他、軸として残す水路・河川

※ 重点整備候補地（P28～P30 第５章 参考資料 １．重点整備候補地別の評価概要）
重点整備箇所 （P18～P25 表：重点整備箇所一覧）
寝屋川再生ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟによる市民提案!!「優先的に整備を進めてほしい箇所」（P26～P27）

※ 「101. 川勝水辺ひろば」「102. 寝屋川の起点」「103. 寝屋川本川とたち川の落差工」「201. 淀川河川公園点野野草地区」の整備については、管理者である国及び大阪府との調整が必要です。

表：重点整備箇所一覧 ※番号は P28～P30 第５章 参考資料 1. 重点整備候補地別の評価概要の候補地名の番号

箇所名	整備の考え方
１．神田地内水路 	・友呂岐水路にも近いことや、水際に近づき易く、市民工事も容易であると思われます。周辺に学校などの施設も多く教育的な効果も期待できます。学校園や周辺自治会などの協力を得ながら、整備を進めることが大切です。
２．仁和寺第一水路 	・第八中学校に近く、農地の横を仁和寺第一水路が流れており、整備も比較的容易であると思われます。近くに住宅が少ないため、維持管理体制の整備が必要です。

３．木田地内水路 	・水がある水路と水が枯れている水路が交互にありますが、水路の幅が広く、また、木田小学校の横にはわかくさ緑道があり、効果的な整備が期待されます。企業が隣接していることから、学校園だけでなく企業の参画も望まれます。 ・デザインフェンスの整備をはじめ、景観形成・防災のためのハード整備や、小学校や企業による利用・学習の場等として活用が期待されます。
４．古川（水路） 	・成美小学校などの総合学習にも活用されてきたことから、扉や水辺に近づける施設整備が効果的であると考えられます。 ・川沿いに空地や道路が少ないため、緑地や遊歩道の整備を同時に進めていくことが有効です。 ・大阪府の「寝屋川流域水循環系再生構想」で「淀川左岸水路で舟くだりを復活」の記述もあり、下流市との連携を見据えた広域的な取組として船着場の整備などが有効です。 ・平成 28（2016）年度から堆積土砂の計画的な浚渫が行われています。

５．友呂岐水路

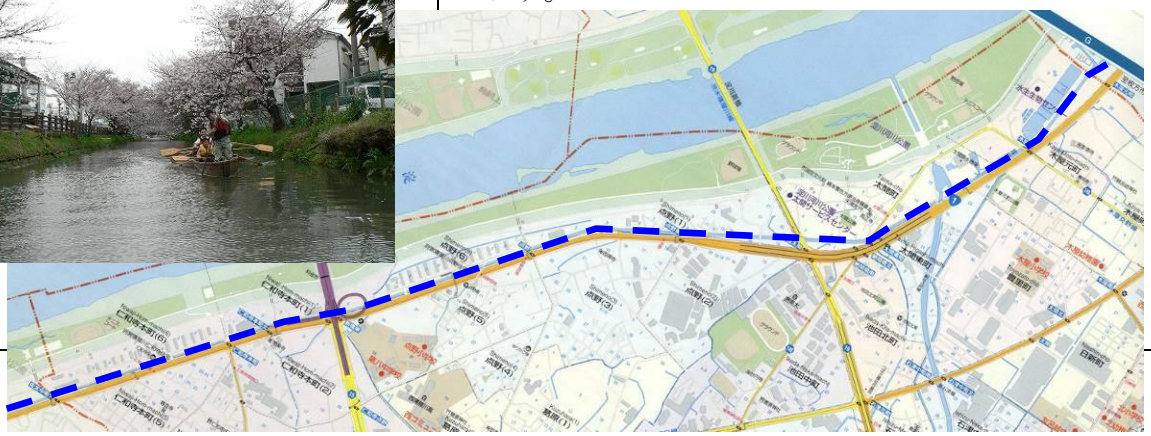
・平成 27（2015）年３月に友呂岐・二十箇水辺ひろばが完成し、桜の季節に舟くだりが行われています。

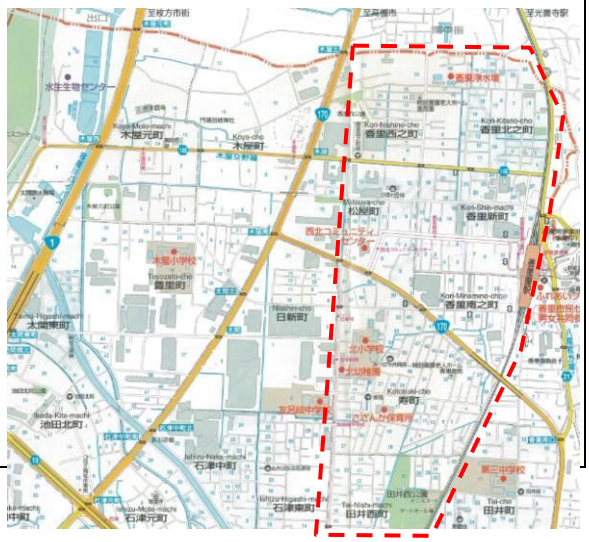
・友呂岐水路沿いには、友呂岐緑地が整備されていますが、京阪沿線における桜の名所となっており船着場等を整備し水辺の市民活動を充実させることで、中核市におけるシティプロモーションの取組としても期待されます。

・友呂岐緑地においては「友呂岐緑地整備基本構想」に基づき、平成 13（2001）～15（2003）年度にリニューアル工事が各所で行われ、三枚板舟の復元版も設置されています。今後も、公園との一体的な整備が効果的です。

６．幹線水路

・木屋揚水機場により淀川から取水する農業用水路であり「大阪みどりの 100 選」にも選ばれた桜の景観で知られています。近くには、市民自らが土木工事を行った茨田樋遺跡水辺公園があり、茨田イチョウまつりなどの市民活動も活発です。
・大阪府の「寝屋川流域水循環系再生構想」の中に浚渫や生態系保全に配慮した河岸整備や舟くだり復活などの計画があり、遊歩道や船着場などの整備促進は、桜などの資源を活かした中核市におけるシティプロモーションの取組としても期待されます。



7．寝屋川第四水路 	・摂南大学によって、末端水路の一部区間でビオトープづくりが行われています。 ・水辺の市民活動が盛んな茨田樋遺跡水辺公園や幹線水路に近接しており、最終は古川に注いでいることなどから、水辺のネットワーク形成が期待できます。治水対策上も重要な水路でありこれらに配慮した整備が必要です。
29．香里浄水場周辺水路 	・香里浄水場周辺をはじめとする水路への環境用水の放流は、水量確保が課題といえます。 ・当地域は水路があるにもかかわらず、特に水源を有しないという状況があり、幹線水路から淀川の水を導水するルートをはじめ、行政が抜本的な対策を検討していく必要があります。 

30. こも池（国松公園）

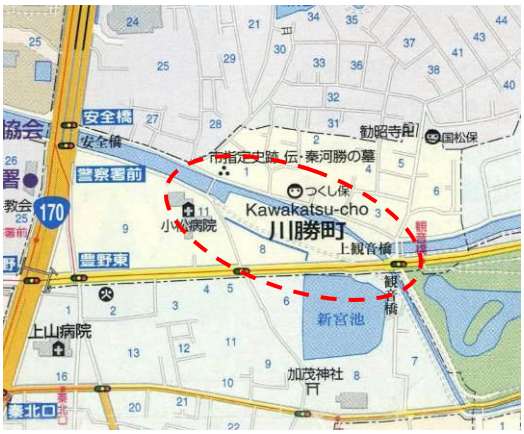
・都市計画公園国松公園の区域内にあるこも池は、用地は市の管理となっていますが、都市公園として未開設です。
・既に都市公園として開設しているエリアについては、こも池を見ながら竹林や雑木林の中を歩くことのできる散策道が整備されています。
・国松公園の周辺は、緑豊かな自然が残されており地域資源であるこも池を生かした空間形成は、大きなポテンシャルを有しています。
・こも池の維持管理では、草刈りを行うため毎年、池の水抜きが行われています。

101. 川勝水辺ひろば

【整備前】

【完成後】

・川勝水辺ひろばは、寝屋川の広い川幅や河川敷の自然を生かして、地域住民等が参加するワークショップ（大阪府主催）を経て整備が行われ、平成25（2013）年６月に完成しました。
・自然観察会（メダカ調査）などが行われています。また、地元住民等の更なる利活用を促進するため平成31（2019）年２月から魚道と渡り場（橋）の設置工事が行われています。
・寝屋川市サクラ☆プロジェクトの桜街道ルートにもなっています。

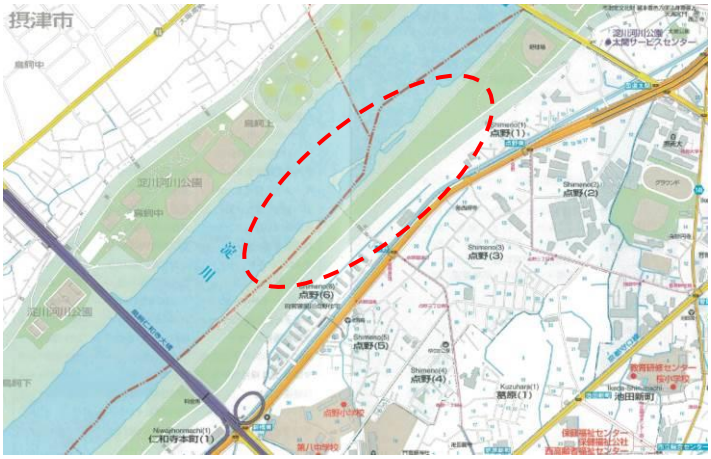


102. 寝屋川の起点

・寝屋川の起点にあたる当該箇所は、公園墓地の緑地と一体的な整備が、平成 13（2001）年度に寝屋川再生ワークショップにより策定した「寝屋川再生プラン」の重点整備地区として位置付けられています。
・寝屋川の起点であることを広く発信するなどのソフト面の充実を図ることが大切です。

103. 寝屋川本川とたち川の落差工

・寝屋川上流のたち川から平池町桜木水門までには落差工があり、生き物（特に魚類）の生息空間の連続性が確保されるよう、引き続き大阪府へ要望していきます。
・川勝水辺ひろばには、下観音橋側に魚道が整備されており、平成 31（2019）年２月から上観音橋側への魚道及びひろば内の渡り場（橋）の設置工事が行われています。
・寝屋川市サクラ☆プロジェクトの京阪寝屋川市駅から寝屋川公園駅を結ぶ桜街道ルートになっており、平成 28（2016）年度には寝屋川左岸法面へ桜の植樹が行われました。

201. 淀川河川公園点野野草地区 	・国が定める「淀川河川公園整備・管理運営プログラム」に基づき、水辺環境の再生・ワンドの環境改善を図るための構想の実現に向け「点野水辺づくりワークショップ」が進められています。 ・淀川まるごと体験会や茨田イチョウまつりなど市民団体等を主体とする活動が継続的に行われるなど、点野野草地区では「川らしい利用」による新しい淀川ブランド（公園サービスの提供）の実現に向け、水辺環境の保全・再生の取組が活発に行われています。 

注：101、102、103、201 については、P28～P30 第５章 参考資料１．重点整備候補地別の評価は行なっていませんが、以下の理由により重点整備箇所としています。

※ 「101. 川勝水辺ひろば」 及び 「103. 寝屋川本川とたち川の落差工」については、寝屋川再生ワークショップで大阪府と利活用を促進するための整備等について検討中です。

※ 「102. 寝屋川の起点」は、寝屋川再生プラン（平成 13（2001）年度）の重点整備箇所になっています。

※ 「201. 淀川河川公園点野野草地区」は、国の「淀川河川公園整備・管理運営プログラム」に位置付けられ、寝屋川再生ワークショップに参加している市民等が積極的に関わり水辺活動を行っています。

3. 寝屋川再生ワークショップによる 市民提案！！「優先的に整備を進めてほしい箇所」

重点整備箇所の中から、市内水路ネットワーク形成上の効果、周辺資源とのネットワーク、住民参加の可能性などを勘案し、以下を優先的に整備を進めてほしい箇所とします。（番号は、P 28～P 30　第５章　参考資料　１．重点整備候補地別の評価概要の候補地名の番号）

★　友呂岐水路（5）

友呂岐水路は、北は桜木町付近から南は南水苑町まで、寝屋川と並行して流れています。隣接して市の中央部を南北に縦断し延長約 3.5km の規模を有する友呂岐緑地も整備されており、水辺整備による地域環境の向上や景観形成など様々な効果が期待されます。平成 27（2015）年３月に「友呂岐・二十箇水辺ひろば」が完成し、摂南大学やボランティア団体による舟下りが実施されており、更なる取組の充実のためにも、１箇所しかない船着き場の対策等が望まれます。

また、水質改善と流量確保について調査・研究するとともに、周辺住民の清掃活動など、積極的な関わりが期待される地点を中心として、ネットワーク形成に配慮しながら、水辺に親しめる空間を整備していくことが大切です。

★　香里浄水場周辺水路　(29)

市全域をみる中で、香里浄水場周辺水路では特に水源をもたず、日常的に水が流れていないことで悪臭や害虫発生などの原因となり、生活環境への支障も指摘されています。当地域の水路へ環境用水を確保するための身近な水源については、幹線水路から淀川の水を取水することが効果的ですが、立地条件や実現性等を考慮し、多様な流水を確保することで、まち全体に潤いが広がっていくことが期待されます。

★　こも池（国松公園）（30)

都市計画公園国松公園の区域内にあり、かつては農業用のため池として使われていましたが、現在は市の管理地となっています。都市公園として開設しているエリアは、こも池を見ながら竹林や雑木林の中を歩くことのできる散策道が整備されています。周辺には大規模マンションや戸建て住宅、国松緑丘小学校があり、都市公園の未買収地として竹林等の広大な民有林が残されています。

こも池は都市公園として未開設（未整備）であり、都市計画公園の整備にあわせて水辺に親しめる空間を創出していくことが重要です。

★　木田地内水路　(3)

寝屋川第十水路の上流部にあたり、周囲を工場や木田小学校に囲まれています。木田小学校北側の「わかくさ緑道」に連なる効果的な整備が期待されます。木田小学校と工場との間には水が無い水路があり、学校園や周辺自治会、企業などとの連携による整備が効果的です。

★　寝屋川の起点　(102)

一級河川たち川と北谷川が合流する当該箇所は、一級河川寝屋川の起点になっています。隣接して公園墓地やサイクルロードが整備されており、ねや川文化と歴史のみち「鉢かづき姫伝説コース」にもなっています。市名である寝屋川の起点であることを広く発信するなどの、ソフト面の充実が必要です。

★　寝屋川本川とたち川の落差工　(103)

寝屋川本川の上流部にあたるたち川から、平池町桜木水門までには落差工があり、魚の遡上に好ましくない状況になっています。川勝水辺ひろばの整備と併せ、新たに魚道が設置されるなど、一部で改善が進められていますが、生き物（特に魚類）の生息空間の連続性が確保されるよう、引き続き大阪府へ要望していきます。

★　淀川河川公園点野野草地区　(201)

大阪と京都を結ぶ多市域におよぶ広域的な水と緑の安らぎの空間である淀川河川公園において、「淀川河川公園整備・管理運営プログラム」に位置付けられた「点野親水空間整備事業」として、水辺環境の再生・ワンドの環境改善を図るための構想の実現に向け、地域参画で描く川に魅力を引き出す公園づくり「点野水辺づくりワークショップ」が進められています。当ワークショップには、寝屋川再生ワークショップに参加している市民等も積極的に参画しており、平成 30（2018）年度は国において、高水敷切り下げなどの実施設計が行われています。

今後、高水敷と低水敷を一体的に活用できる親水空間として具体的な整備が期待され、寝屋川市や寝屋川再生ワークショップでは、利活用の促進や情報発信等、積極的な連携を図ることが重要です。

第 5 章　参考資料

1.　重点整備候補地別の評価概要 ※評価項目の◎は、市民提案!!優先的に整備を進めてほしい箇所

候補地名	① 市内水路ネットワーク形成上の効果	② 周辺資源とのネットワーク	③ 住民参加の可能性	④ 整備の容易性（熟度）	評価	候補地
1. 神田地内水路	○友呂岐水路	○小学校、幼稚園、保育所など	△	○水辺が低く、接近が容易	○	住民参加の可能性追及が必要。以前は「輪中」的な整備が行われていた。
2. 仁和寺第一水路	△	○第八中学校	△	○	○	比較的簡易な整備が可能。中学校の協力が必要。
3. 木田地内水路（南小学校北側、わかくさ緑道）	○	○小学校、緑道に隣接	△	△	◎	水路が広く、整備効果は高い。学校、企業の協力が必要。
4. 古川（水路）	○	○	○総合学習での活用実績あり	△	○	下流市との連携を見据えた、広域的な取組が必要。 船着場整備等が有効。
5. 友呂岐水路	○住民の利用が多い	○友呂岐緑地	△	△	◎	寝屋川に沿うように流れており、 水質の改善や水量の確保、 船着場など、より水辺を身近に感じられる整備・活用が期待される。
6. 幹線水路	○幹線水路	○揚水機場	△	△	○	住民参加が重要。
7. 寝屋川第四水路	○点野とも近く古川に注ぐ	○摂南大学に隣接	△	○関連水路一部整備済	○	摂南大学によって ビオトープが、一部区間で整備されている。
8. 寝屋川第十二水路（南寝屋川公園周辺）	○讃良川に近い	○公園内を流れている。	△	△一部整備済	○	公園内整備済。平成 27(2015)年に、イオンモール四條畷の開発発事業者による 整備箇所は、 生物の生息状況等について経過観察中。 未整備区間の 親水的整備が考えられる。
9. 寝屋川第十一水路・上流水路	○	○中央小学校、寝屋川駅前線、初本町公園に隣接	△	△	○	寝屋川駅前線の整備により、水路沿いにポケットパークが整備されている。 道路や公園、学校との 一体的な整備が考えられる。
10. 友呂岐・二十箇水辺ひろば	○友呂岐水路・二十箇水路・若葉町水路の結節点	○近くに保育所、幼稚園	○実績あり	△整備済	—	平成 26 (2014)年度に市民工事によって整備された。舟くだりが行われるなど、市内の水辺を考える 小さなコミュニティの拠点となっている。

候補地名	① 市内水路ネットワーク形成上の効果	② 周辺資源とのネットワーク	③ 住民参加の可能性	④ 整備の容易性(熟度)	評価	候補地
11. 茨田樋遺跡水辺公園	△	○淀川沿い	○実績あり	△整備済	—	平成 16～18 (2004～2006)年度に市民工事によって整備された。 毎年、茨田イチョウまつりが行われている。完成から 10 年が経過しており、 施設の 老朽化対策等が 課題。
12. 葛原地内水路	△工場地帯	△京都守口線に隣接	△	○調整池の取入口が整備済	△	工場地帯を流れているが、里川の景観が残っている。
13. 桜小学校横水路	○点野とも近く古川に注ぐ	○摂南大学に近い	△	○部分的に整備試行	△	小学校でビオトープの実績あり。
14. からくる親水公園	○	○	○	△整備済	—	整備済みのため評価なし。隣接マンションによる フリーマーケット実績あり。
15. 打上川(区画整理横)	○	△区画整理事業済	△	△整備済	—	整備済みのため評価なし。
16. 池田第一水路・上流水路	△	△	△摂南大学構内	△	△	摂南大学の協力が必要。
17. 木屋神社前の水路	△	○鞆呂岐神社に隣接	△	△	△	住民参加が重要。
18. 高宮栄町地内水路周辺	△	△	△	△	△	当該地周辺には 、他に水路がなく、整備により潤いの場所ができるが 、浸水対策への配慮も重要。
19. 香里園駅西側	△	△香里園駅前	△	△	△	駅前整備済みであり、流水確保等が課題。 (候補地 No29 に含む)
20. 山新池 (太秦2号公園)	△	○都市計画公園区域	△	△整備済	—	平成 28～29(2016～2017)年度に、都市計画公園太秦2号公園整備事業として、山新池を生かした自然環境保全型の整備が実現。完成後は、市民団体と連携した竹林の保全活動などが行われている。
21. 三井団地調整池	△	○打上川治水緑地に近い	○川の清掃活動が盛ん	△	△	調整池として整備済みのため活用には工夫が必要。ホタル鑑賞が可能な整備など。
22. たち川周辺	○たち川に隣接	△	△	△	△	たち川周辺の 水辺環境の保全。
23. 田井小学校付近	△	○小学校に隣接	△	△	△	小学校でビオトープの実績あり。清掃活動が盛ん。
24. 池田 1 号公園付近	△	○公園に隣接	△	△	△	公園と一体化した整備の可能性。

候補地名	① 市内水路ネットワーク形成上の効果	② 周辺資源とのネットワーク	③ 住民参加の可能性	④ 整備の容易性（熟度）	評価	候補地
25. 寝屋川第五水路	○	△	△	△	△	仁和寺第一水路と古川をつなぐ水路で浸水対策も重要。
26. 五藤池	△	○第一中学校、東小学校に隣接	△	△	△	東コミュニティセンターにも隣接している。
27. 三ツ池（成田公園）	○	○	△	△	△	整備済みであり、自然環境の保全が重要。南前川に注ぐ。
28. 河北第二水路及び門真第六水路	○	○	△	△	△	門真市弁天池公園と一体感のある整備が考えられる。
29. 香里浄水場周辺水路	○	○香里浄水場、香里園駅西側駅前広場など	△	△	◎	香里園地域の水路への環境用水の確保が課題。 水源や導水ルートについては、検討を要する。
30. こも池（国松公園）	△	○都市計画公園区域国松緑丘小学校に隣接	△大規模マンションが隣接	○都市計画公園	◎	こも池を中心として、周辺には竹林・雑木林などの緑豊かな自然環境が残されている。住民参加が重要。 都市計画公園の整備推進。
その他、軸として残す水路・河川	○	○	△	△	—	水路網の中心になる重要な普通河川等

※「101.川勝水辺ひろば」、「102.寝屋川の起点」、「103.寝屋川本川とたち川の落差工」、「201.淀川河川公園点野野草地区」については、事業主体が国または大阪府であるため、評価していません。

２．寝屋川市内水路等・整備候補地抽出マップ

平成 31 (2019) 年 3 月

木屋揚水機場

17. 木屋神社前の水路

★●29. 香里浄水場周辺水路

16. 池田第一水路・上流水路

19. 香里園駅西側

木屋元町公園

11. 茨田碑遺跡水辺公園

10. 友呂岐・二十箇水辺ひろば

★●201. 淀川河川公園点野野草地区

23. 田井小学校付近

27. 三ツ池（成田公園）

点野ワンド

★●30. こも池（国松公園）

★●102. 寝屋川の起点

●7. 寝屋川第四水路

21. 三井団地調整池

幸町公園

13. 桜小学校横水路

（寝屋川）

（たち川）

22. たち川周辺

●2. 仁和寺第一水路

24. 池田１号公園付近

堂池

寝屋川せせらぎ公園

★●103. 寝屋川本川とたち川の落差工

12. 葛原地内水路

新宮池

●101. 川勝水辺ひろば

25. 寝屋川第五水路

26. 五藤池

15. 打上川

大谷池

20. 山新池（太秦2号公園）

●6. 幹線水路

9. 寝屋川第十一水路・上流水路

●4. 古川（水路）

18. 高宮栄町地内水路周辺

★●3. 木田地内水路

28. 河北第二水路及び門真第六水路

讃良川

●1. 神田地内水路

なわて水みらいセンター

★●5. 友呂岐水路

14. からくる親水公園

8. 寝屋川第十二水路

●：重点整備箇所　13 箇所（P18～P25　参照）

★：上記の内、寝屋川再生ワークショップによる市民提案！！「優先的に整備を進めてほしい箇所」
7箇所（P26～P27　参照）

●1	神田地内水路	19	香里園駅西側
●2	仁和寺第一水路	20	山新池（太秦2号公園）
★●3	木田地内水路	21	三井団地調整池
●4	古川（水路）	22	たち川周辺
★●5	友呂岐水路	23	田井小学校付近
●6	幹線水路	24	池田１号公園付近
●7	寝屋川第四水路	25	寝屋川第五水路
8	寝屋川第十二水路	26	五藤池
9	寝屋川第十一水路・上流水路	27	三ツ池（成田公園）
10	友呂岐・二十箇水辺ひろば	28	河北第二水路及び門真第六水路
11	茨田樋遺跡水辺公園	★●29	香里浄水場周辺水路
12	葛原地内水路	★●30	こも池（国松公園）
13	桜小学校横水路	–	その他、軸として残す水路・河川
14	からくる親水公園		
15	打上川	●101	川勝水辺ひろば
16	池田第一水路・上流水路	★●102	寝屋川の起点
17	木屋神社前の水路	★●103	寝屋川本川とたち川の落差工
18	高宮栄町地内水路周辺	★●201	淀川河川公園点野野草地区

3. 寝屋川再生ワークショップが関わった主な水辺整備

名　称	開設年月	概　要
寝屋川せせらぎ公園 （一級河川寝屋川）	平成17（2005）年４月	京阪寝屋川市駅前に、生き物にも人にもやさしい公園として整備。空石積みによる護岸や沈下橋、源流域の植生などを提案。大阪府・寝屋川市事業。
茨田樋遺跡水辺公園	平成19（2007）年４月	淀川近くの点野地区に残された茨田樋を活かし、地域住民や自治会等による「市民工事」で整備。寝屋川市事業。隣接する淀川堤防には国土交通省がスロープを整備。
幸町公園 （一級河川寝屋川）	平成21（2009）年４月	大阪府警察寝屋川待機宿舎建替整備等事業に併せて、自然を生かした親水空間として、都市公園と河川の一体的な整備。大阪府・寝屋川市事業。
川勝水辺ひろば （一級河川寝屋川）	平成25（2013）年６月	打上川治水緑地からの放水渠があり、広い川幅の河川敷の自然を生かした親水空間として整備。階段やスロープ、散策道、魚道を設置。大阪府事業。
友呂岐・二十箇水辺ひろば	平成27（2015）年３月	友呂岐水路と二十箇水路が合流する地点で、友呂岐緑地が隣接する。身近な親水空間として地域住民や自治会とも連携した「市民工事」による整備。舟くだりが行われるなど、市内の水辺を考える小さなコミュニティの拠点となっている。寝屋川市事業。
山新池 （太秦２号公園）	平成29（2017）年４月 平成30（2018）年４月	都市計画公園太秦２号公園の整備に際して、サギなどの生育地となっている山新池の自然を生かした公園を提案。 【平成29（2017）年４月供用開始】 野鳥観察デッキを整備 【平成30（2018）年４月供用開始】 山新池の北側に散策路を整備 完成後は、竹林の間伐などの維持管理にも貢献。寝屋川市事業。

寝屋川せせらぎ公園　せせらぎ水路

茨田樋遺跡水辺公園　市民工事

幸町公園

川勝水辺ひろば

友呂岐・二十箇水辺ひろば　完成式典

山新池（太秦２号公園）水抜き

4. 寝屋川再生ワークショップのこれまで

年度		概　要
平成 13（2001）年度		５回のワークショップ。一級河川寝屋川の再生プランの取りまとめ。 ・寝屋川再生の基本的考え方 ・市域、上・中・下流部の川整備と保全の考え方 ・重点整備箇所（４箇所）の整備・保全イメージ ・市民ネットワークの考え方 寝屋川再生プランの実現を目指し、市から委嘱されたワークショップ委員が中心となり広く市民に呼びかけ、市民ネットワークとして市民の自主組織である「ねや川水辺クラブ」を設立しました。
平成 14（2002）年度		３回のワークショップ。ハード計画のより具体的な提案を行うとともに、ねや川水辺クラブと連携して、川下りやクリーンリバー寝屋川作戦等、様々なソフトの取組を継続的に実施しました。
平成 15（2003）年度		５回のワークショップ。駅前整備の植栽、池の瀬護岸工事、池田小学校ビオトープ、幸町大阪府警職員住宅周辺のあり方など、幅広い市民活動やまちづくりについて検討しました。
平成 16（2004）年度		５回のワークショップ。点野地区において、かつて淀川から農業用水を引き入れてきた樋門跡周辺の歴史親水空間計画づくりを行いました。また、大阪府警察寝屋川待機宿舎建替整備等事業に併せて、周辺の住民とともに、河川と一体となった公園計画づくりを行いました。
平成 17（2005）年度		４回のワークショップ。中央小学校３年生のこどもワークショップを行いました。また、幸町の河川と一体となった公園計画づくりや、点野の歴史親水空間の整備も行いました。 寝屋川市駅前では平成 17（2005）年４月、市民が提案した寝屋川再生プランに基づく整備が完了しました。
平成 18（2006）年度		５回のワークショップ。うち３回は地元住民、ねや川水辺クラブとともに、茨田樋遺跡水辺公園において市民工事を推進しました。この他、摂南大学地域連携センター月例セミナー等を通じて、寝屋川市内の水辺事業のあり方などについての調査検討を行いました。
水辺整備基本構想の検討	平成 19（2007）年度	４回のワークショップ。寝屋川市内の水路、ため池等の水辺のあり方や整備が考えられる箇所（候補地）の抽出と見学会、整備アイデアの検討を行いました。
	平成 20（2008）年度	３回のワークショップ。寝屋川市内水路等の活用のあり方について意見交換を行うとともに、水辺整備の目標、ネットワーク形成、整備を進めるべき箇所、住民参加の可能性について検討し、整備可能箇所の選定等を行いました。
	平成 21（2009）年度	４回のワークショップ。寝屋川市内水路を視察し、市内水辺整備の理念と目標を定め、重点整備箇所や優先的に整備を進めるべき箇所を抽出しました。

年度	概　要
平成 22（2010）年度	－
平成 23（2011）年度	３回のワークショップ。水辺整備基本構想の中から、第十一水路上流水路と第十二水路を抽出し、現地見学のうえ課題整理等を行い、整備のあり方や水辺活動のあり方を検討し、整備のイメージを作成しました。
平成 24（2012）年度	３回のワークショップ。新たな整備候補地等を現地見学のうえ評価を行い、 第十二水路の南寝屋川公園下流部の整備のイメージを作成しました。
平成 25（2013）年度	３回のワークショップ。二十箇水路と友呂岐水路の合流点の現地見学を行い、整備のイメージを作成しました。市内の水辺を考える「小さなコミュニティの拠点」として、広場内の緑化やＥボートを下ろせる舟つき場、隣接する若葉町地内水路もあわせて整備することとしました。
平成 26（2014）年度	４回のワークショップと３回の市民工事。前年度に検討した二十箇水路と友呂岐水路の合流点の整備のイメージに基づき、地元自治会も参加しながら具体的な整備内容を確認し、市民工事による整備を行いました。名称を「友呂岐・二十箇水辺ひろば」とし、整備後に完成記念式典とＥボートによるイベントが行われました。 そのほか、山新池（太秦２号公園）の整備のあり方について意見交換を行いました。
平成 27（2015）年度	３回のワークショップ。山新池（太秦２号公園）とイオンモール四條畷に隣接する第十二水路の現地見学を行いました。山新池については野鳥の生息場としての自然環境を保全することや、公園整備のスケジュールを確認しました。第十二水路については、開発事業者が施工する水路整備の情報共有を行いました。
平成 28（2016）年度	３回のワークショップ。うち１回は山新池（太秦２号公園）の竹林間伐などを市民工事として行いました。また、今年度から２箇年で進めている太秦２号公園整備工事の進捗状況や、完成後の山新池を守り育てる保全活動等について検討しました。
平成 29（2017）年度	３回のワークショップと２回の番外編。寝屋川再生 15 年の歩みや水辺整備基本構想についての説明、太秦２号公園整備工事の完成や淀川河川公園点野野草地区など市内の水辺整備に関する情報共有を行いました。また、山新池の保全活動として竹林間伐や外来種の捕獲を試み、番外編としてＴＶ局の協力により、池の水質浄化・環境改善を目的として、池の水を抜き、外来種の駆除などを行いました。
平成 30（2018）年度 水辺整備基本構想(改定版)の検討	３回のワークショップと現地見学会。これまで市民協働で進めてきた水辺環境の整備と保全についての取組成果を踏まえ、改めて寝屋川市内の水辺の見学会を実施し、今後の水辺整備に関する方向性を取りまとめるべく水辺整備基本構想の改定を行いました。

上記の取組は、様々な組織や団体とのネットワークにより進めてきました。(2019. 3現在、記載順不同)

●行政（国・大阪府の河川・下水・環境農林水産部門）　●教育機関（大学・高校・小学校）
●クリーンリバー寝屋川作戦　清掃場所 12 箇所の周辺自治会等 35 団体
●その他、ＮＰＯ団体 12 団体、地域団体、企業、自治会など

5. 淀川河川公園基本計画などの概要

○　淀川河川公園基本計画（平成 20（2008）年８月）当初計画：昭和 50（1975）年策定

淀川河川公園が抱えている様々な問題点を踏まえ、昭和 54（1979）年に改定された「淀川河川公園基本計画」を抜本的に見直し、淀川の自然環境や淀川と人との関わりを次世代に引き継ぐための公園づくりを目指して改定

● 整備方針

⑴ ゾーニング計画を新たに定める
①自然環境保全・再生ゾーン
②水辺環境保全・再生ゾーン
③多目的利用ゾーン

⑵ 淀川の自然環境の保全・再生を図る

⑶ 淀川らしい利用ができるようにする
①淀川の自然環境と利用との調和を図る
②淀川の自然環境の中で水に親しみ、憩う場をつくる
③淀川全体をつなぐ・まちと淀川をつなぐ
④淀川の水辺の景観を楽しめる場をつくる

⑷ 淀川にまつわる歴史・文化資源を活かす

● 管理運営方針

⑴ 淀川の自然環境の保全・再生に関する調査・分析と見直しを行う
⑵ 安全、快適に利用できるようにする
⑶ 淀川にふれ、学ぶための機会を増やす
⑷ 多様な主体の参加と連携を図る

○　淀川河川公園太間・点野野草地区公園整備計画（平成 25（2013）年３月）

淀川河川公園基本計画に基づき、地域協議会おいて様々な意見を反映した公園計画及び整備、管理運営を検討し、全体協議会からの点検や助言により策定

水辺環境の再生などを位置付け

○「みんなで育てる河川公園（仮称）」モデル地区の選定

中流左岸域地域協議会（平成 25（2013）年９月）に「みんなで育てる河川公園（仮称）」のモデル地区として点野野草地区を選定

○　点野水辺づくりワークショップの開催

平成 26（2014）年９月の第１回から、平成 30（2018）年度末までに計 13 回実施

○　淀川河川公園整備・管理運営プログラム（平成 29（2017）年３月）

今後取り組んでいく 2020 年度までの整備及び管理運営方針

整備の重点方針の一つに、地域参画で描く川の魅力を引き出す公園づくりとして「点野親水空間整備事業」を位置付け

資料：淀川河川公園基本計画（平成 20（2008）年８月）、淀川河川公園整備・管理運営プログラム（平成 29（2017）年３月）などから要約

6. 寝屋川流域水循環系再生構想の概要

寝屋川流域では、平成 13（2001）年度に国の都市再生プロジェクト第３次決定「水循環系の再生」のモデル流域として指定されたことを受け、学識経験者等からなる「寝屋川流域水循環系再生構想委員会」が設立された。この委員会で水質の改善、水量の確保、水辺環境の整備に関する長期的な施策が検討され、「寝屋川流域水循環系再生構想」として取りまとめられた。

自然の水循環系再生施策と、人工の水循環系構築施策の２つの施策から構成され、寝屋川上流ブロックに関する施策としては、以下のようなものが挙げられている。

《自然の水循環系再生》

- 「寝屋川市駅前の水辺整備の実施」
- 「森林の下層植生の回復による保水浸透機能の向上」
- 「近郊農業の育成等による保水地域の維持」
- 「山麓部を中心に、開発行為に伴う雨水浸透施設の設置」
- 「透水性舗装等：舗装の打ち換え等にあわせて準備整備」
- 「屋上緑化等による保水、蒸発散機能の回復・強化」
- 「市街地における長期的な緑地の保全・創出：緑地の保全を目標とした市街化区域の考え方等の改革」
- 「淀川左岸幹線水路（農業用水路）で生態系保全に配慮した河岸整備」
- 「友呂岐水路の排水ポンプ等の改修により、停滞水域の解消を図るとともに、生物の生息環境を改善」
- 「水辺の都市計画の策定」
- 「都市の開発と一体となった水辺整備の実施」
- 「打上川合流部で植生浄化」

《人工の水循環系再構築その１》

- 「なわて水みらいセンターの整備」
- 「河川・水路・道路の清掃、美化活動の継続実施」

《人工の水循環系再構築その２》

- 「都市用水を削減し、環境用水を増加させる」
- 「高度処理水の有効利用」
- 「既設水路の有効活用、木屋揚水機場を活用した淀川からの非かんがい期における環境用水の確保」
- 「水田、水路の持つ多面的機能の回復、保全」
- 「水文化の回復・育成：舟くだりを復活」

資料：寝屋川流域水循環系再生構想検討報告書（平成 15（2003）年６月）健全な水循環系構築に関する関係省庁連絡会議から要約

7. 寝屋川流域水環境改善計画の概要

寝屋川流域水循環系再生構想（平成 15（2003）年６月）の実行計画として、淀川水系寝屋川流域水環境改善緊急行動計画（清流ルネッサンスⅡ）が平成 16（2004）年５月に策定され、平成 23（2011）年度までの目標を定め、河川管理者、下水道管理者のほか流域市や地域住民などを含めた流域の関係者が一体となって水環境改善に取り組んだ結果水質が大きく改善されるなど大きな成果が得られてきた。

しかし、依然として流量が低下する非かんがい期において水質が悪化し、目標を達成できていない河川もあること等、更なる流域全体の水環境の改善に向けた取組を推進するため、寝屋川流域水環境改善計画が平成 24（2012）年５月に策定された。平成 30（2018）年４月には、中間評価が行われている。

※親水空間として、寝屋川せせらぎ公園、幸町公園、川勝水辺ひろばが紹介されている。

○　上位計画：寝屋川流域水循環系再生構想（平成 15（2003）年６月）
　　淀川水系寝屋川ブロック河川整備計画（平成 27（2015）年３月）

○　計画期間：2021 年度までの 10 年間

○　対象区域：寝屋川流域内の河川及び水路（流域内の 11 市）

○　目標等

《全体の目標像》

～人とのつながりを育み、誰もが愛着を持てる川～

- 快適な水環境
- 生物が生息・生育しやすい川
- 親しみやすい河川空間

《水域別の目標像》

寝屋川上流域「水に入って生き物と触れ合える川」

《目標水質》寝屋川 ①清水橋 ②萱島橋

- ＢＯＤ 3mg/L 以下　→　H13～H28 ほぼ達成　※未達成：H15 清水橋
- ＤＯ　5mg/L 以上　→　H13～H28 全て達成
- ＳＳ　10mg/L 以下　→　H13～H28 ほぼ達成　※未達成 H19,24,25 清水橋

《目標水量》寝屋川 萱島橋

- 1.82 ㎥/S 以上　→　H28 1.53 ㎥/S（非かんがい期 10～5 月）

《施策展開の視点》

- 流域全体の水はひとつ
- 地域と川の関わりを深める
- 地域の住民、ＮＰＯ、企業、行政が連携

《施策内容》

- 水量の安定的な確保
- 水質の汚濁負荷の削減・発生源の対策
- 河道内のごみの削減
- 川に対する愛着を深める仕掛けづくり
  寝屋川上流域での生物の生息環境にも配慮した親水空間の整備
- 企業の行動促進

資料：寝屋川流域水環境改善計画（平成 24（2012）年５月）、寝屋川流域水環境改善計画中間評価（平成 30（2018）年４月）から要約

8. 淀川水系寝屋川ブロック河川整備計画の概要

○ 淀川水系寝屋川ブロック河川整備計画（平成 27（2015）年３月）

第１次計画（昭和 29（1954）年～）第２次計画（昭和 51（1976）年～）

第３次計画（昭和 63（1988）年～：総合治水）

○ 計画期間：概ね 30 年

○ 対象区間：淀川水系寝屋川ブロック内の全ての一級河川

○ 河川整備計画の目標

● 河川整備の長期目標（流域基本高水のピーク流量 2,700 ㎥/S）

● 洪水等による災害の発生の防止又は軽減に関する目標（治水対策・耐震対策）

● 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する目標

安全で潤いのあるまちづくりの核となるよう、確保すべき水量・水質などに十分配慮し、水環境の回復・改善に努める。

● 河川環境の整備と保全に関する目標

快適な水環境、生物が生息・生育・繁殖しやすい川、親しみやすい河川空間を創出し、寝屋川流域に関わる誰もが愛着を持てる河川空間の実現を目指す。

寝屋川上流域「水に入って生き物と触れ合える川」

環境整備対象箇所「打上川治水緑地下流ほか」親水空間整備Ｌ＝0.3㎞

○ 河川整備の実施事項

● 治水施設の整備

● 河川環境改善の取組

寝屋川流域水環境改善計画に基づき河川環境の改善に取り組んでいく。

⑴ 水量の安定的な確保

⑵ 汚濁負荷の削減・発生源の対策

⑶ 地域が主体となった川づくりによる良好な河川環境・景観の形成

⑷ 自然環境の保全と再生

⑸ ダイオキシン類の対策

資料：淀川水系寝屋川ブロック河川整備計画（平成 27（2015）年３月）から要約

9. 寝屋川市環境基本計画（改定版）の概要

○　寝屋川市環境基本計画（改定版：平成 23（2011）年３月）

当初計画：平成 14（2002）年２月

○　計画期間　　※改定版でも「目指すべき将来像」と「５つの基本目標」は引継いでいる。

環境づくりの目標　2025 年度

実施する各種の基本施策　当初計画：平成 13（2001）年度～10 年間

改定版：平成 23（2011）年度～10 年間

○　環境づくりの目標など

● 目指すべき将来像

水と緑が奏でる、やさしさと循環のあるまち・ねやがわし

－メダカやホタルの生きるまち－

● ５つの基本目標と基本施策

⑴　四季を感じ、楽しみ、学ぶ空間づくりに取り組むまち

▸四季を感じる空間の保全と創造

身近な自然環境の保全として、河川・水路、ため池等の保全に努める。

▸水辺とのふれあい空間の再生

寝屋川浄化用水量の適正化、市内河川・水路の水質浄化・流量確保に努める。

多自然水辺空間の整備に向け、寝屋川再生ワークショップにおいて候補地を選定し、工法検討のための河川、水路等の現況調査を行う。

▸自然と歴史のネットワークの形成

河川・水路を基本軸として、環境学習の場として活用を目指す。

▸水環境再生モデル事業の実施

水環境再生モデル事業が、市民参画により展開されることを目指す。

▸生物多様性の保全

⑵　公害のない安全な環境づくりを進めるまち

⑶　うるおいのある生活空間を再構築するまち

⑷　循環型社会実現に向けた仕組みづくりをするまち

⑸　みんなが地球にやさしい行動を実践するまち

資料：寝屋川市環境基本計画（改定版）（平成 23（2011）年３月）から要約

10. 寝屋川市みどりの基本計画改定版の概要

○ 寝屋川市みどりの基本計画改定版（平成 31（2019）年３月）

当初計画：平成 13（2001）年３月

○ 目標年度：概ね 20 年後（2040 年）

○ 基本方針など

● 基本理念

協働・共助により発展する水とみどりの中核市寝屋川市

● 基本方針と基本施策

⑴ 骨格となるみどり

▸淀川河川公園の保全再生

淀川河川公園は、本市を代表する大規模な自然環境が形成されており、これまでのスポーツ・レクリエーション機能は一定保持しつつも、近年失われつつある自然環境の保全・再生を目指し、国が取り組むワンド郡や低水護岸の改善を進めるため、淀川河川公園中流左岸域地域協議会などとの更なる連携を図ります。

⑵ 拠点となるみどり

⑶ 土地利用に応じたみどり

⑷ ネットワークを形成するみどり

▸水辺環境の保全・活用

寝屋川流域協議会における流域全体での取組や、「寝屋川市水辺整備基本構想」などを踏まえ、市民とともに快適な水環境の保全に努めることや、沿川における市民が親しめる空間としての更なる活用を進めます。

▸市内水路網の保全

計画的かつ効率的な水路の維持管理を図るとともに、寝屋川流域協議会における流域全体での取組や「寝屋川市水辺整備基本構想」などを踏まえ、市民とともに水辺空間としての更なる活用を進めます。

⑸ みどりの管理運営

資料：寝屋川市みどりの基本計画改定版（平成 31（2019）年３月）から要約

寝屋川市水辺整備基本構想（改定版）

平成 31 (2019) 年３月

編　集　　寝屋川再生ワークショップ

寝屋川市 上下水道局 治水計画室

連絡先　　〒572-0832　寝屋川市本町 15 番１号

ＴＥＬ　　072－824－1181（代表）

072－813－1192（直通）

Ｈ　Ｐ　　http://www.city.neyagawa.osaka.jp

この冊子は 300 部作成し、１部当たりの印刷単価は 666 円です。

中核市
ねやがわ
～命と笑顔が輝くまち～
桜と笑顔が咲き誇る
中核市 ねやがわへ
2019年4月移行